

令和4年11月17日（木）現在

【 果 樹 】

ミカンの入荷量と需要が拡大傾向だが、今年度はミカンの出荷量は少ない見通し。  
生柿は、10月中旬以降潤沢入荷が続くも消費は鈍く、販売環境は厳しい状況が続く。

<リンゴ>

青森県産「サンふじ」が増量、中生種の在庫もあることから荷動き鈍く相場は弱保合。  
特秀 26 玉 3,800~3,000 円 秀 3,300~2,800 円 ○秀 2,800~2,400 円 赤秀 2,200~1,800 円  
特秀 32 玉 3,300~3,000 円 秀 3,000~2,500 円 ○秀 2,600~2,000 円 赤秀 2,200~1,800 円

<あんぽ柿>

東京都中央売り場への入荷量が増加してきた。相場は弱保合で、荷を動かす販売となっている。  
平核無 200g トレー  
特秀 2L 380 円 青秀 L・2L 350 円

【 野 菜 】

気温高の影響から西南暖地・関東産ともに果菜類・葉菜類中心に潤沢入荷となっている。  
11月は年末に向けて消費が鈍る傾向が見られるため、量販店での荷動きは重く、相場を弱め荷動きを促す販売となった。  
今後は、末端での消費動向を伺いながらにはなるが、比較的気温が高い予報から引き続き潤沢入荷が見込まれるため、軟調気味の相場展開はまだ続く見通し。

<きゅうり>

宮崎県・高知県産など越冬産地の増量により全体量は増加傾向にある。また、一般的に荷動きの重さから相場は弱保合の展開となっている。  
@ A 1,600 円 ~ 1,500 円

<いちご>

近在産地（栃木・茨城）が徐々に増加となっているが、昨年と比べると数量は少なく推移している状況。11月下旬からは、近在産地の頂果房がピークとなる見込みから、今後も相場を下げながら、量販店の売り場確保・拡大を優先した販売となる見通し。  
@ L 550 円 A 500 円

<に ら>

他葉菜類の軟調相場に引きずられ荷動きは重い、入荷は少ない状況であるため保合展開となっている。  
@ A L 95 円 ~ 85 円

<春 菊>

関東産ハウス作の増量によって全体量は多く、今後も増加が見込まれるが、気温低下による荷動きの回復を期待し、相場は弱保合程度となっている。  
@ A 100 円 ~ 80 円